

2020年11月18日 全8頁

Indicators Update

2020年10月貿易統計

全地域向けで輸出数量が増加、輸入も持ち直し

経済調査部 エコノミスト 鈴木 雄太郎

[要約]

- 2020年10月の貿易統計によると、輸出金額は前年比▲0.2%とコンセンサス(同▲4.5%)を大きく上回り、前年比のマイナス幅が一段と縮小した。季節調整値で見ても、前月比+2.6%と5ヶ月連続で増加した。輸出金額は5月を底に回復基調にあり、20年3月の水準まで回復した。
- 輸出数量(大和総研による季節調整値)は前月比+5.0%と5ヶ月連続で増加した。地域別に見ると、米国向け(同+6.4%)、EU向け(同+10.4%)、アジア向け(同+6.7%)いずれも増加した。
- 先行きの輸出数量は回復基調が継続するとみている。ただし回復ペースは鈍化するだろう。11月に入り、欧州各国では新型コロナウイルスの感染再拡大に伴いロックダウンが実施されており、欧州向けの輸出が減少に転じることは避けられないだろう。他方、中国向けを含むアジア向けは堅調さを維持し、米国向けは緩やかな増加基調をたどるとみている。

図表1：貿易統計の概況

		2020年									
		2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	
原系列 前年比 %	輸出金額	▲1.0	▲11.7	▲21.9	▲28.3	▲26.2	▲19.2	▲14.8	▲4.9	▲0.2	
	コンセンサス									▲4.5	
	DIRエコノミスト予想									▲4.6	
	輸入金額	▲13.9	▲5.0	▲7.1	▲26.1	▲14.4	▲22.3	▲20.7	▲17.4	▲13.3	
	輸出数量	▲2.4	▲11.2	▲21.3	▲27.3	▲26.9	▲21.9	▲14.9	▲7.7	▲1.6	
	価格	1.4	▲0.6	▲0.7	▲1.4	1.0	3.5	0.1	3.0	1.5	
	輸入数量	▲17.3	▲2.5	1.5	▲14.6	▲0.8	▲14.0	▲11.6	▲8.5	▲5.7	
季節 調整値 前月比 %	価格	4.2	▲2.6	▲8.4	▲13.5	▲13.7	▲9.6	▲10.3	▲9.8	▲8.0	
	貿易収支(億円)	11,066	72	▲9,312	▲8,413	▲2,729	71	2,444	6,878	8,729	
	輸出金額	3.4	▲3.7	▲11.0	▲4.7	1.3	6.1	4.9	3.5	2.6	
	数量	3.2	▲5.5	▲15.1	▲9.4	4.5	6.3	11.2	2.9	5.0	
	価格	0.2	1.9	4.7	5.3	▲3.0	▲0.2	▲5.6	0.5	▲2.3	
	輸入金額	▲6.9	5.8	1.0	▲10.5	▲2.2	▲2.2	0.3	2.3	5.1	
	数量	▲14.0	11.9	7.9	▲10.1	0.0	▲2.7	▲0.0	0.5	4.8	
価格	8.3	▲5.5	▲6.4	▲0.4	▲2.2	0.5	0.3	1.8	0.3		
	貿易収支(億円)	3,758	▲1,814	▲8,925	▲4,963	▲3,116	1,162	3,651	4,400	3,143	
	税関長公示レート	109.50	107.96	108.56	107.17	107.78	107.23	106.19	105.96	105.51	

(注1) 税関長公示レートは円/ドルレート。コンセンサスはBloomberg。

(注2) 数量と価格の季節調整値は大和総研による。

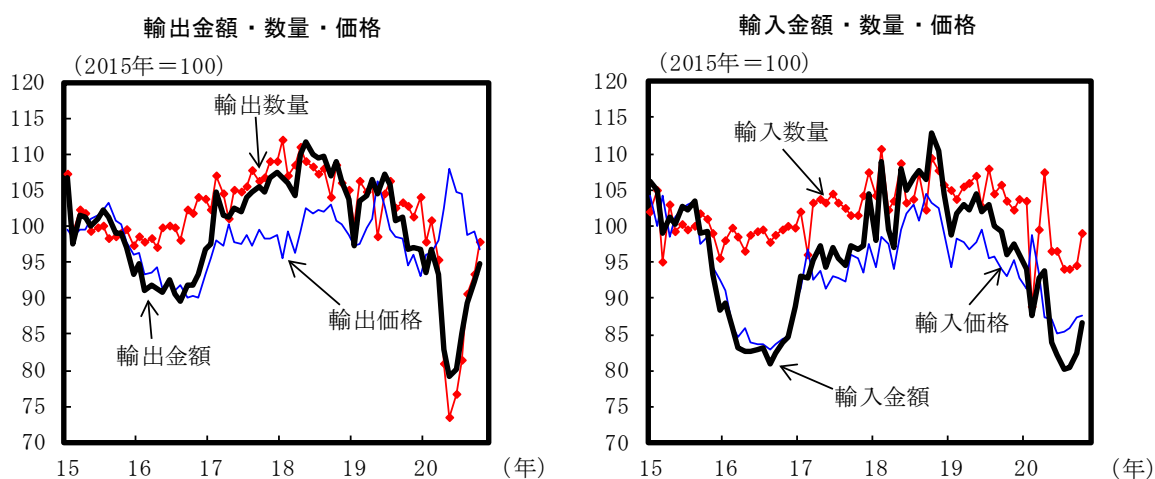
(出所) 財務省、Bloombergより大和総研作成

【貿易金額】 輸出金額は5ヶ月連続で増加、輸入も持ち直し

10月の貿易統計によると、輸出金額は前年比▲0.2%とコンセンサス（同▲4.5%）を大きく上回り、前年比のマイナス幅が一段と縮小した。10月上中旬まで輸出金額は前年同期比で▲4.6%であり、コンセンサスから上振れしたのは下旬に輸出が増加したためとみられる。季節調整値で見ても、前月比+2.6%と5ヶ月連続で増加した。輸出金額は20年3月の水準まで回復し、5月を底に回復基調にあることを確認できる内容であった。

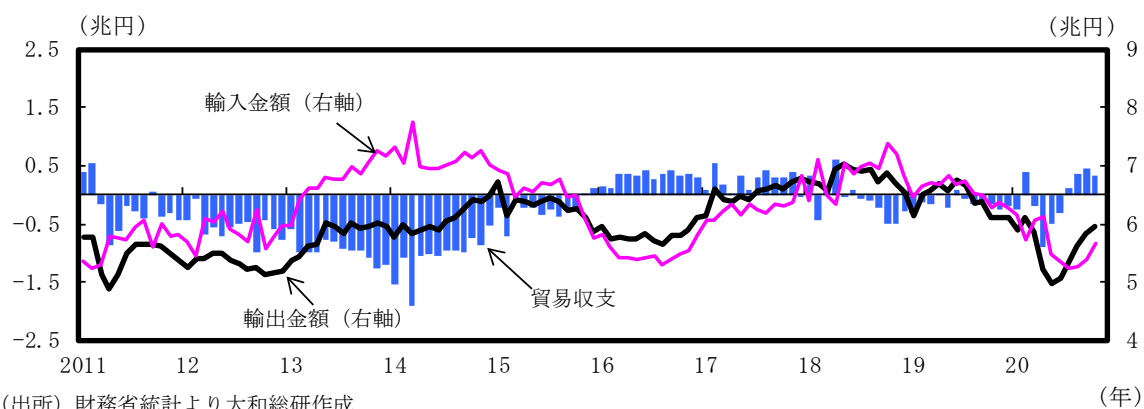
輸入金額の前年比は▲13.3%と2桁のマイナスが続いているものの、季節調整値で見ると前月比+5.1%と3ヶ月連続で増加した。内需の回復を受け、輸出に遅れる形で輸入も持ち直している。貿易収支は8,729億円と4ヶ月連続で黒字となった。

図表2： 輸出金額・数量・価格、輸入金額・数量・価格（季節調整値）



(注) 輸出数量、輸入数量、輸出価格、輸入価格の季節調整は大和総研。
(出所) 財務省統計より大和総研作成

図表3： 輸出、輸入、貿易収支（季節調整値）



(出所) 財務省統計より大和総研作成

【輸出数量】全地域向けで増加

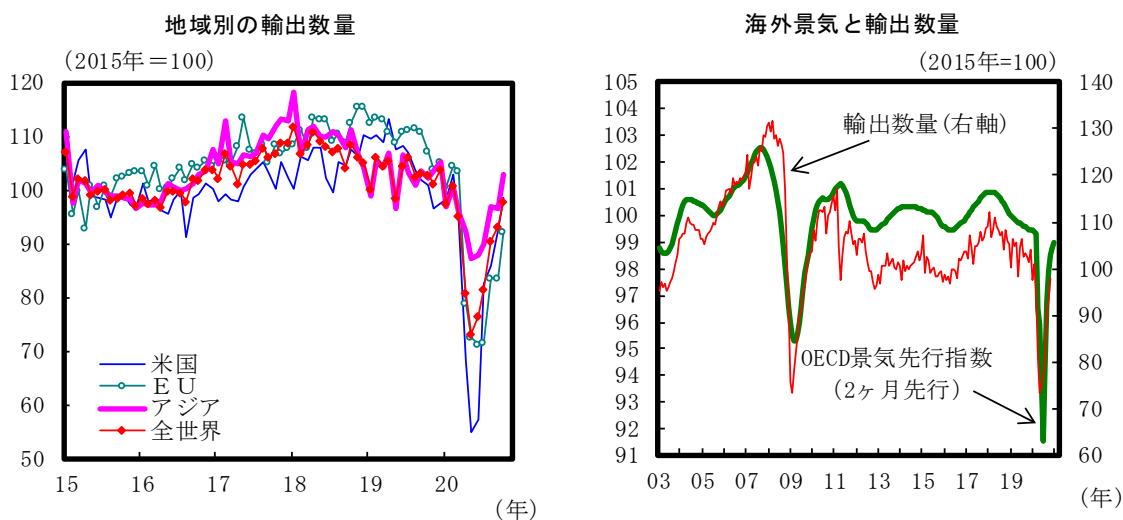
10月の輸出数量（大和総研による季節調整値）は前月比+5.0%と5ヶ月連続で増加した。地域別に見ると、米国向け（同+6.4%）、EU向け（同+10.4%）、アジア向け（同+6.7%）いずれも増加した。それぞれの地域向けの輸出数量を2019年対比で見ると、米国向けは▲6.4%、EU向けは▲16.2%、アジア向けは▲0.1%となっている。

地域別・品目別に見ると、米国向けでは自動車や同部分品が全体を押し上げたほか、原動機なども増加に寄与した。自動車輸出は6月以降、ペントアップディemandもあり輸出全体を大きく押し上げていた。10月も増勢を維持し、水準で見ると2016年11月以来の高水準となった。

EU向けでは原動機や自動車の部分品が増加した。10月に入り、欧州各国では新型コロナウイルス感染症が再拡大しており、感染症対策を強化していた。その影響を受け、自動車などの耐久消費財は減少に転じたものの、資本財や鉄鋼・非鉄金属などの中間財の輸出が全体を下支えした。

アジア向けはIC、電算機類の部分品が好調だった。また、自動車や同部分品も増加に寄与した。アジア向け輸出は中国向け主導で回復しており、ASEAN向けなどは回復のペースが鈍い。中国向けは電算機類（含周辺機器）が押し上げたものの、8月まで全体を大きく押し上げていた鉄鋼などの中間財輸出が足元で一服している。

図表4：地域別の輸出数量、海外景気と輸出数量（季節調整値）



(注1) OECD景気先行指数 (CLI) はOECD諸国とBRICsなど非加盟6ヶ国を集計したベース。

(注2) 輸出数量の季節調整は大和総研。

(出所) 財務省、OECD統計より大和総研作成

【見通し】回復基調は継続するが、増加ペースは鈍化する見込み

先行きの輸出数量は回復基調が継続するとみている。ただし回復ペースは鈍化するだろう。11月に入り、イギリスやフランスなどでは新型コロナウイルスの感染再拡大に伴いロックダウンが実施されており¹、欧州向けの輸出は減少に転じることは避けられないだろう。現時点では、いずれの国も1ヶ月程度の短期間のロックダウンを予定しているが、今後の感染状況次第では、ロックダウン期間の長期化が予想され、輸出の下振れリスクも高まることとなる。

他方、中国向けを含むアジア向けは堅調さを維持するとみている。とりわけ中国向け輸出は中間財を中心に堅調に推移するだろう。中国の鉱工業生産指数や固定資産投資などの前年比伸び率は4月以降堅調に推移している。今後も地方政府特別債券などを原資にインフラ投資が全体をけん引する公算が大きい。中国向け輸出は中間財（鉄鋼や非鉄金属など）の割合が高く、中国の生産や投資の回復による輸出増が期待できる。加えて、8月には小売売上高が前年比プラスに転換し、9、10月は伸び率が加速している。割合はそこまで大きくないものの、消費の回復に伴い最終需要財の輸出増も期待できよう。

米国向け輸出は緩やかな増加基調をたどるだろう。米国向けは5月を底に急速に回復していたが、この一部にはペントアップディマンドも含まれているとみられる。米国の小売売上高を見ると、財消費は既にコロナショック前の水準に回復しているが伸びは鈍化しており、ペントアップディマンドが剥落しつつある可能性が高い。

また各国の工場稼働率は緩やかに回復しているものの、低水準での推移が続いている。日本の輸出に占める割合が高い、欧米向けの資本財輸出は回復が相当の時間を要するとみている。

¹ 詳細は大和総研レポート ロンドンリサーチセンター 近藤智也「[ユーロ圏、7-9月期は年率+61.1%成長 過去最高を記録するも、ダブルディップシナリオが現実味を増す](#)」（2020年11月2日）を参照。

【トピック】RCEP 協定への署名の影響：短期的には限定的も長期で見ればプラス材料

11月15日、東アジア地域包括的経済連携（RCEP）協定が署名に至った。RCEPは日本、中国、韓国、ASEAN10ヶ国、豪州、ニュージーランドの15ヶ国からなる自由貿易圏である。当初はインドも交渉に参加していたものの、2019年11月に離脱の意向を示し、結果的にASEAN+5という形になった。ASEAN+5は世界の人口、そしてGDPの約3割を占めており、世界最大規模のFTAということになる。

日本は2008年以降、ASEANや豪州とEPAを締結しており、ニュージーランドとはTPP11が発効している。そのため、RCEPによってこれらの国向けの輸出が大幅に増加する可能性は低い。もちろん、インドネシア向けの鉄鋼製品の一部やタイ向けの自動車部品の一部など、これまで関税撤廃から除外されていた品目で関税が撤廃されることはプラス材料である。

むしろ今回の合意で注目されるのは、中国、韓国との貿易であろう。日本の輸出先を国別に見ると、中国向けが最も多く、韓国向けも米国に次いで3番目に多い。この2ヶ国とFTAを締結できたことの意義は大きい。

ただし、この2ヶ国向けの輸出に与える影響も短期的には限定的であるとみられる。中国向けの輸出は鉄鋼や非鉄金属など工業製品の間接財が多いが、こうした品目の関税率はもともと相対的に低い。また2ヶ国向けの自動車部品や韓国向けの化学品など、ほとんどの品目には10年以上の経過措置が設けられている。長期的に見れば、時限措置後には関税が撤廃されるためプラス材料となろう。

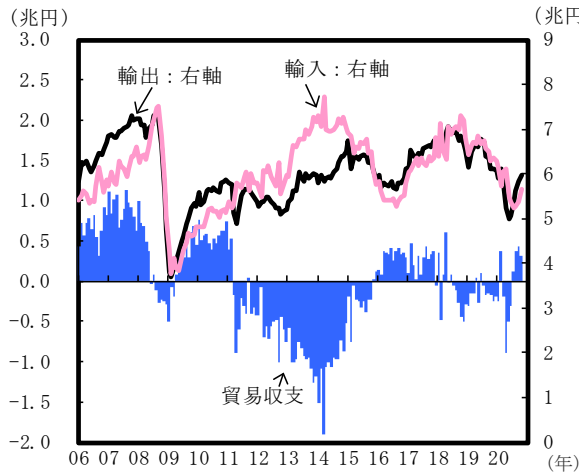
図表5：日本と各国・地域との発行済み、署名済みEPA / FTA一覧

発効時期	名称	発効・署名時期	名称
2002年11月	日・シンガポールEPA	2009年10月	日・ベトナムEPA
2005年4月	日・メキシコEPA	2011年8月	日・インドEPA
2006年7月	日・マレーシアEPA	2012年3月	日・ペルーEPA
2007年9月	日・チリEPA	2015年1月	日豪EPA
2007年11月	日・タイEPA	2016年6月	日・モンゴルEPA
2008年7月	日・インドネシアEPA	2018年12月	TPP11
2008年7月	日・ブルネイEPA	2019年2月	日EU・EPA
2008年12月	日ASEAN・EPA	2020年1月	日米貿易協定
2008年12月	日・フィリピンEPA	2020年10月	日米デジタル貿易協定
2009年9月	日・スイスEPA	2020年11月	日英EPA
			RCEP

(出所) 外務省資料より大和総研作成

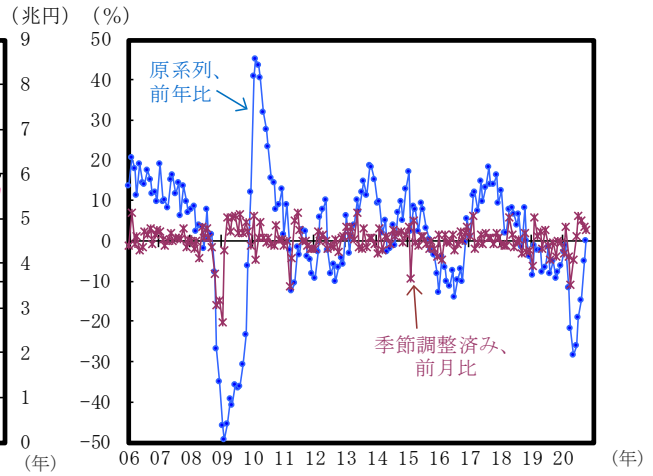
概況

輸出入と貿易収支 (名目、季節調整値)

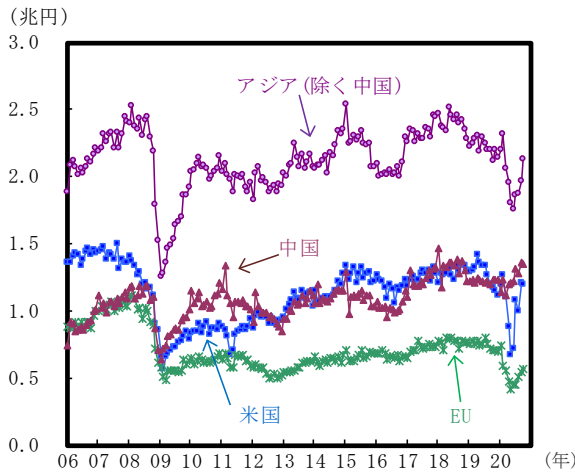


(出所) 財務省統計より大和総研作成

輸出額の変化率 (名目)

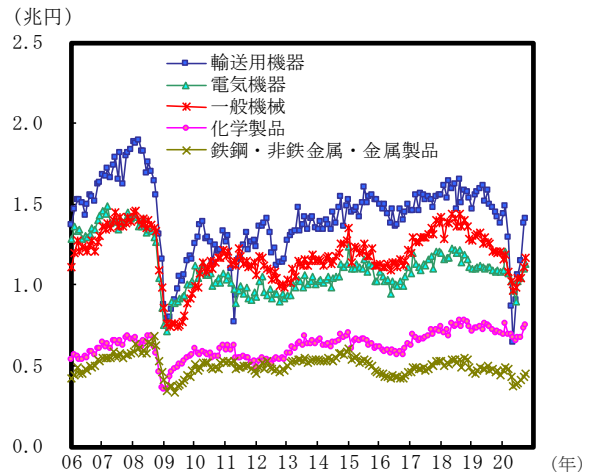


主要地域・国別の輸出額 (名目、季節調整値)

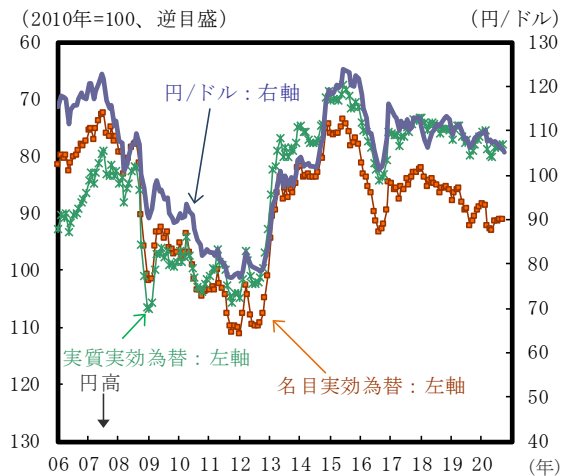


(注) 季節調整は大和総研。
(出所) 財務省統計より大和総研作成

主要商品別の輸出額 (名目、季節調整値)

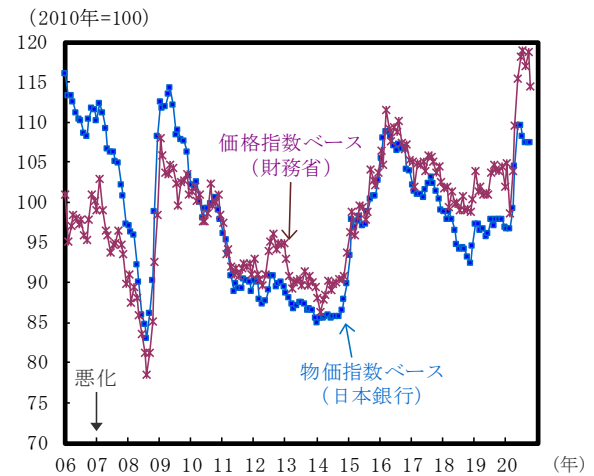


為替相場



(注) 交易条件は、輸出価格指数/輸入価格指数 (輸出物価指数/輸入物価指数)。
(出所) 財務省、日本銀行統計より大和総研作成

交易条件



輸出金額 内訳								
	2020/05	2020/06	2020/07	2020/08	2020/09	2020/10		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	▲28.3	▲26.2	▲19.2	▲14.8	▲4.9	▲0.2	100.0	▲0.2
食料品	6.6	▲3.2	4.7	13.1	15.6	21.5	1.2	0.2
原料品	▲32.6	▲20.0	▲7.0	▲6.4	5.7	22.3	1.5	0.3
鉱物性燃料	▲72.6	▲53.4	▲70.4	▲68.8	▲60.6	▲68.6	0.5	▲1.2
化学製品	▲7.0	▲14.2	▲10.7	▲8.2	1.7	8.2	12.2	0.9
原料別製品	▲23.8	▲25.5	▲22.0	▲14.1	▲11.3	▲3.7	10.2	▲0.4
鉄鋼	▲27.6	▲26.6	▲32.0	▲27.4	▲29.1	▲20.4	3.1	▲0.8
非鉄金属	▲5.9	3.2	17.2	30.2	41.2	32.3	2.3	0.6
金属製品	▲26.8	▲35.4	▲28.1	▲21.7	▲12.0	1.7	1.5	0.0
一般機械	▲23.2	▲24.5	▲17.7	▲16.8	▲7.8	▲2.8	18.2	▲0.5
電気機器	▲13.7	▲18.5	▲7.8	▲5.5	1.0	4.6	18.9	0.8
半導体等電子部品	▲1.5	▲7.8	▲0.6	▲0.4	3.3	▲2.7	5.7	▲0.2
I C	▲6.4	▲8.3	▲2.5	▲2.8	0.7	▲7.9	4.0	▲0.3
映像機器	▲51.2	▲45.0	▲19.5	▲28.7	▲9.4			
映像記録・再生機器	▲49.0	▲45.5	▲20.2	▲29.0	▲7.8	20.7	0.5	0.1
音響・映像機器の部分品	▲21.0	▲60.3	▲49.8	▲8.9	1.7	6.4	0.3	0.0
電気回路等の機器	▲17.9	▲22.0	▲15.4	▲13.6	▲2.2	5.0	2.6	0.1
輸送用機器	▲60.2	▲41.1	▲32.9	▲23.2	▲7.2	▲1.9	23.6	▲0.5
自動車	▲64.1	▲49.9	▲30.0	▲19.4	▲0.5	3.0	16.1	0.5
自動車の部分品	▲57.2	▲52.3	▲32.5	▲21.0	▲7.7	4.0	4.8	0.2
その他	▲14.4	▲22.6	▲11.4	▲11.7	▲0.1	1.3	13.7	0.2
科学光学機器	▲14.8	▲13.4	▲6.6	▲17.6	▲6.9	1.1	2.8	0.0

米国向け輸出金額 内訳								
	2020/05	2020/06	2020/07	2020/08	2020/09	2020/10		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	▲50.6	▲46.6	▲19.5	▲21.3	0.6	2.5	100.0	2.5
食料品	▲33.2	▲35.6	▲12.5	▲5.8	10.9	1.8	0.8	0.0
原料品	▲21.5	▲26.5	11.4	3.5	7.7	29.4	0.6	0.1
鉱物性燃料	▲70.0	▲28.3	▲58.8	▲89.7	▲90.6	▲96.5	0.0	▲1.1
化学製品	9.8	▲20.3	▲21.8	▲39.3	▲1.6	▲2.1	6.8	▲0.2
原料別製品	▲36.9	▲44.3	▲36.7	▲27.5	▲18.5	▲9.6	5.5	▲0.6
鉄鋼	▲22.4	▲51.8	▲38.2	▲44.4	▲34.0	▲32.3	0.8	▲0.4
非鉄金属	▲27.6	▲18.3	▲46.9	▲43.0	▲40.2	▲39.5	0.4	▲0.3
金属製品	▲45.9	▲53.8	▲33.5	▲17.7	▲11.0	10.7	1.7	0.2
一般機械	▲40.9	▲45.5	▲30.2	▲34.8	▲19.4	▲8.6	21.1	▲2.0
電気機器	▲42.2	▲37.7	▲16.5	▲12.5	1.7	12.6	14.1	1.6
半導体等電子部品	▲35.4	▲40.5	▲21.7	▲15.6	▲5.8	▲1.5	1.3	▲0.0
I C	▲48.3	▲45.9	▲25.6	▲20.2	▲4.4	▲11.9	0.6	▲0.1
映像機器	▲58.8	▲44.5	▲12.5	▲31.9	▲3.4			
映像記録・再生機器	▲57.9	▲49.8	▲23.4	▲33.8	▲7.6	26.4	0.8	0.2
音響・映像機器の部分品	▲63.2	▲90.5	▲83.9	▲46.7	▲27.2	20.1	0.2	0.0
電気回路等の機器	▲41.2	▲37.4	▲20.6	▲18.6	4.1	9.4	1.4	0.1
輸送用機器	▲76.4	▲60.4	▲10.5	▲8.6	12.2	15.3	40.6	5.5
自動車	▲78.9	▲63.3	▲6.7	▲3.5	19.1	22.5	32.3	6.1
自動車の部分品	▲73.2	▲58.3	▲19.6	▲18.3	▲1.1	18.6	6.0	1.0
その他	▲40.3	▲35.0	▲16.9	▲17.5	19.6	▲7.3	10.6	▲0.9
科学光学機器	▲27.2	▲13.8	▲11.8	▲26.0	▲10.8	9.6	2.3	0.2

EU・英国向け輸出金額 内訳								
	2020/05	2020/06	2020/07	2020/08	2020/09	2020/10		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	▲43.8	▲41.4	▲44.0	▲32.8	▲24.0	▲19.4	100.0	▲19.4
食料品	▲38.8	▲42.8	▲25.2	▲8.4	▲9.3	11.0	0.6	0.0
原料品	▲67.7	▲45.0	▲39.9	▲39.9	▲14.7	▲14.3	0.9	▲0.1
鉱物性燃料	▲94.0	▲76.8	▲95.8	▲4.1	▲91.8	▲84.9	0.1	▲0.4
化学製品	▲0.7	▲16.4	▲10.3	▲14.7	▲12.8	2.6	11.7	0.2
原料別製品	▲36.4	▲39.0	▲35.5	▲35.5	▲32.4	▲17.1	6.0	▲1.0
鉄鋼	▲15.1	1.7	▲32.2	▲37.7	▲47.1	9.7	0.8	0.1
非鉄金属	▲23.9	▲37.8	▲25.2	▲45.4	▲52.0	▲28.7	0.8	▲0.3
金属製品	▲46.2	▲46.6	▲35.9	▲42.8	▲25.3	▲20.2	1.4	▲0.3
一般機械	▲47.7	▲43.4	▲43.1	▲34.2	▲26.5	▲19.2	21.3	▲4.1
電気機器	▲34.4	▲39.1	▲29.5	▲20.4	▲16.4	▲12.3	18.0	▲2.0
半導体等電子部品	▲30.5	▲25.9	▲25.4	▲15.5	▲9.8	▲1.0	2.4	▲0.0
I C	▲39.8	▲21.2	▲29.6	▲19.6	▲9.3	▲9.6	1.0	▲0.1
映像機器	▲68.1	▲57.4	▲31.0	▲37.3	▲12.8			
映像記録・再生機器	▲68.0	▲51.5	▲18.7	▲36.0	2.4	38.8	1.0	0.2
音響・映像機器の部分品	▲38.0	▲52.3	▲47.0	▲7.0	▲17.8	▲9.7	0.2	▲0.0
電気回路等の機器	▲39.8	▲41.0	▲40.3	▲36.3	▲24.0	▲18.8	1.5	▲0.3
輸送用機器	▲63.9	▲51.2	▲58.6	▲36.6	▲20.5	▲27.6	25.6	▲7.8
自動車	▲58.7	▲47.7	▲59.9	▲41.3	▲20.2	▲34.4	15.4	▲6.5
自動車の部分品	▲77.0	▲71.7	▲52.1	▲17.8	▲14.0	▲3.4	7.0	▲0.2
その他	▲38.5	▲40.0	▲49.7	▲46.6	▲36.8	▲25.0	15.9	▲4.3
科学光学機器	▲25.2	▲22.5	▲25.7	▲22.1	▲14.9	▲10.0	3.5	▲0.3

(注) 小数点の丸め方による影響で公表資料と完全には一致しない項目がある。映像機器は、速報時点では公表されない。

(出所) 財務省統計より大和総研作成

アジア向け輸出金額 内訳								
	2020/05	2020/06	2020/07	2020/08	2020/09	2020/10		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	▲12.0	▲15.3	▲8.2	▲7.8	▲2.0	4.4	100.0	4.4
食料品	18.8	8.8	14.8	17.2	18.4	24.5	1.6	0.3
原料品	▲27.9	▲17.1	▲3.8	▲3.2	7.4	25.9	2.2	0.5
鉱物性燃料	▲59.3	▲2.2	▲57.3	▲52.7	▲34.7	▲49.1	0.8	▲0.8
化学製品	▲12.1	▲16.3	▲10.3	▲5.3	0.9	9.6	16.3	1.5
原料別製品	▲20.2	▲22.0	▲16.8	▲10.7	▲6.3	0.5	12.9	0.1
鉄鋼	▲30.7	▲28.2	▲29.5	▲27.5	▲26.8	▲18.6	4.1	▲1.0
非鉄金属	▲3.5	3.8	19.4	33.7	54.4	41.9	3.7	1.1
金属製品	▲15.5	▲27.2	▲24.2	▲18.6	▲11.8	▲1.7	1.6	▲0.0
一般機械	▲7.2	▲10.4	▲5.7	▲6.0	0.1	3.2	18.1	0.6
電気機器	▲1.5	▲9.6	▲2.2	▲2.3	2.9	4.9	23.6	1.2
半導体等電子部品	2.0	▲4.6	1.7	1.0	4.2	▲2.9	9.3	▲0.3
IC	▲3.8	▲6.2	▲0.9	▲1.8	1.1	▲7.8	6.6	▲0.6
映像機器	▲33.2	▲43.1	▲21.6	▲22.2	▲16.7			
映像記録・再生機器	▲26.6	▲40.4	▲18.0	▲24.7	▲15.8	4.6	0.3	0.0
音響・映像機器の部分品	▲7.6	▲40.0	▲34.3	▲2.3	4.3	▲2.9	0.4	▲0.0
電気回路等の機器	▲9.6	▲15.7	▲9.7	▲10.1	▲0.6	6.4	3.7	0.2
輸送用機器	▲38.3	▲28.1	▲18.8	▲19.1	▲12.6	▲0.9	9.0	▲0.1
自動車	▲42.7	▲19.2	▲16.1	▲9.6	▲3.9	0.2	4.7	0.0
自動車の部分品	▲35.5	▲43.1	▲32.6	▲25.5	▲15.2	▲5.4	3.4	▲0.2
その他	▲2.8	▲16.0	▲1.3	▲9.6	▲3.5	8.3	15.5	1.2
科学光学機器	▲10.1	▲10.6	▲1.8	▲15.5	▲5.8	▲0.0	3.3	▲0.0

中国向け輸出金額 内訳								
	2020/05	2020/06	2020/07	2020/08	2020/09	2020/10		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	▲1.9	▲0.2	8.2	5.1	14.0	10.2	100.0	10.2
食料品	41.0	17.7	▲8.1	▲1.6	14.9	10.5	0.9	0.1
原料品	▲44.0	▲36.2	19.3	15.0	11.2	30.4	1.6	0.4
鉱物性燃料	▲30.4	72.0	▲57.7	▲58.4	▲14.1	▲46.2	0.6	▲0.6
化学製品	▲2.3	▲0.6	0.8	2.5	4.3	4.2	16.7	0.7
原料別製品	2.2	15.6	14.0	23.2	30.4	9.8	11.3	1.1
鉄鋼	▲12.5	16.4	9.9	18.3	14.3	▲0.0	2.9	▲0.0
非鉄金属	41.4	72.0	72.4	81.4	101.6	34.5	3.5	1.0
金属製品	1.1	▲7.4	▲9.4	▲1.5	0.8	3.3	1.6	0.1
一般機械	▲3.6	▲3.3	8.9	6.0	20.7	15.4	22.3	3.3
電気機器	8.5	▲0.8	12.2	5.6	4.4	4.6	20.8	1.0
半導体等電子部品	5.6	▲0.3	18.3	10.0	▲14.5	▲16.1	5.5	▲1.2
IC	4.1	▲1.1	22.7	9.0	▲28.8	▲29.7	3.4	▲1.6
映像機器	▲16.1	▲28.0	▲11.8	▲20.0	▲18.2			
映像記録・再生機器	▲1.2	▲13.1	▲1.5	▲28.0	▲19.2	11.3	0.5	0.1
音響・映像機器の部分品	19.2	▲37.0	▲41.1	20.9	19.2	▲11.5	0.4	▲0.1
電気回路等の機器	3.1	▲0.0	5.1	▲3.2	10.0	15.7	3.8	0.6
輸送用機器	▲16.4	7.1	17.9	18.7	23.5	16.1	11.0	1.7
自動車	▲20.8	18.8	19.0	29.0	33.6	22.4	6.2	1.2
自動車の部分品	▲11.2	▲7.1	16.2	7.8	8.8	5.0	4.4	0.2
その他	0.5	▲10.8	4.8	▲8.7	13.3	18.3	14.7	2.5
科学光学機器	▲8.8	▲17.4	▲0.9	▲17.5	▲5.6	▲10.9	4.0	▲0.5

(注) 小数点の丸め方による影響で公表資料と完全には一致しない項目がある。映像機器は、速報時点では公表されない。

(出所) 財務省統計より大和総研作成